

取付店の方は必ずお読みください

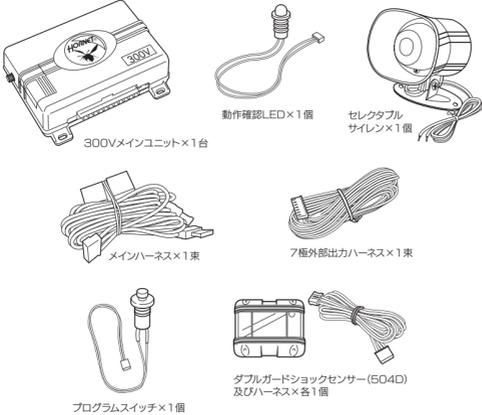
ホーネット300V 取付説明書

取付けミスは誤作動や車両の電装品に影響を与える原因となります。車両電装の知識不足による誤った配線方法により車両の故障、故障が発生しても当社では一切の責任を負いかねます。

KATO-DENKI

GI-S074-3

300V の梱包物 (取付けの前に必ずご確認ください)



※スピーカーはフロントガラスには貼れないので、フロントガラスの下部から100mm以下、かつガラスと車体の隙から125mm以内におさまるように貼ってください。また、スピーカーの両側には貼れません。*

●本製品の仕様およびオプションは技術向上のため、予告なく変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

取付上および安全上の注意

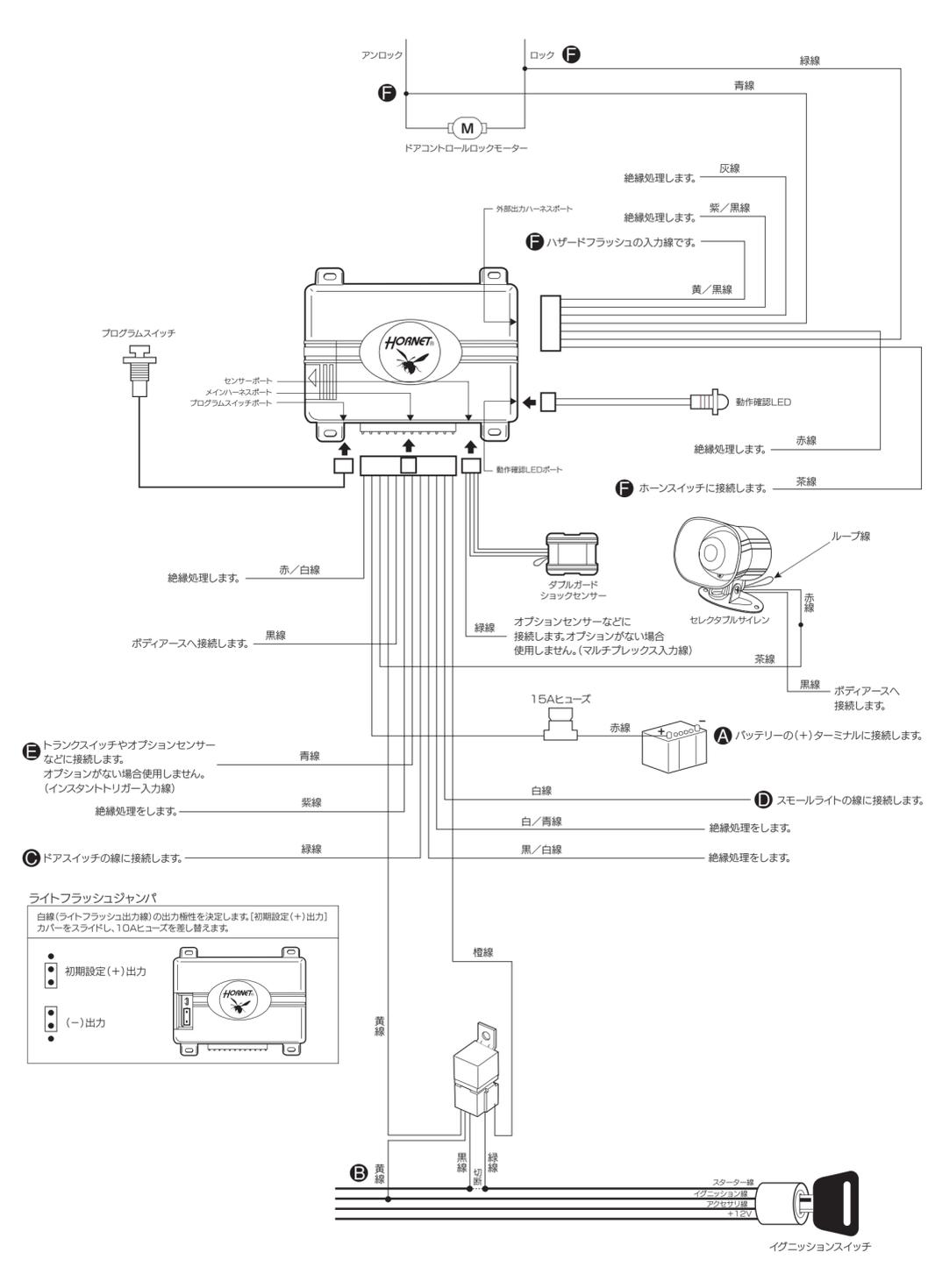
- 必ずお読みください
●国産車限定
●本製品の動作の有無にかかわらず、車両遊離、車上ねらい等が発生しても当社では責任を負いかねますのでご了承ください。

- 危険
●知識のない方が取付けを行うと車両、システムの故障・損傷のみならず、人体にも危険が及ぶ恐れがあります。

- 警告
●エアバッグ (SRS) 装置車
●必ず正しい取付け、配線を行ってください。取付けおよび配線を誤ると、車両の設置、機器類を破壊あるいは損傷する恐れがあります。

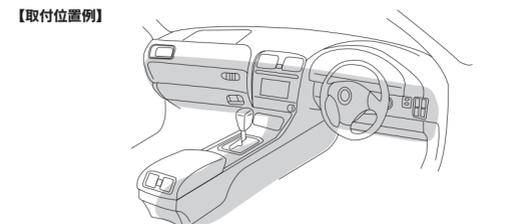
- 注意
●メインユニットから各種オプション部品の配線、接続を行った場合には保護のため貫通口必ずゴムパッキンなどを使用してください。

接続全体図

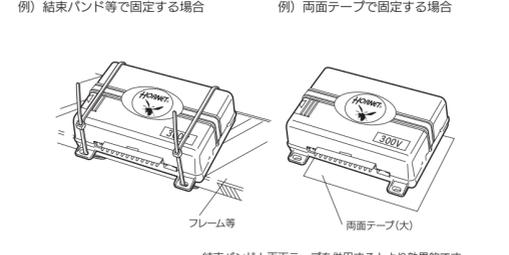


●～●の表記について：接続の詳細は裏面をご覧ください。

メインユニットの取り付け



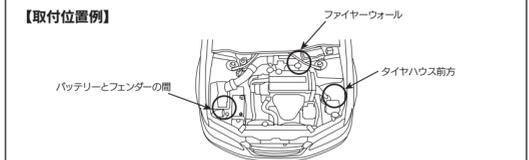
メインユニットをしっかりと固定します。



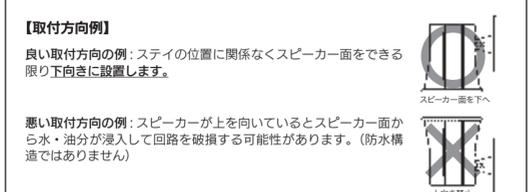
- 設置禁止場所
●エンジンルーム内
●フロントガラスおよびリアガラス直下等、直射日光の当たるところ

セレクトابلサイレンの取り付け

クルマのボンネットを開けて、セレクトابلサイレンの取り付けスペースを確認します。スピーカーは次の条件をすべて満たす場所に設置してください。



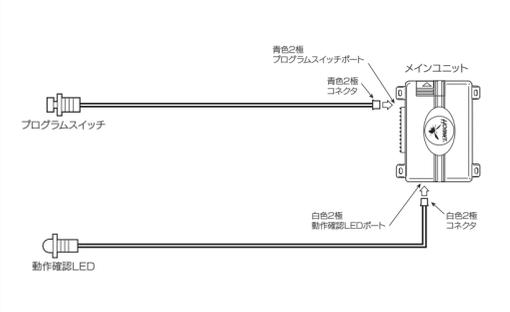
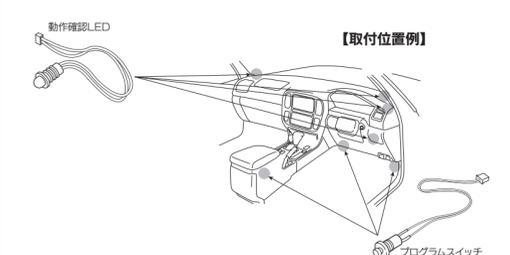
【取付方法】セレクトابلサイレンの固定金具部を車両に設置済みのボルト穴を利用して確実に固定します。



- 悪い取付方向の例：スピーカーが上を向いているとスピーカー面から水・油分が浸入して回路を破壊する可能性があります。

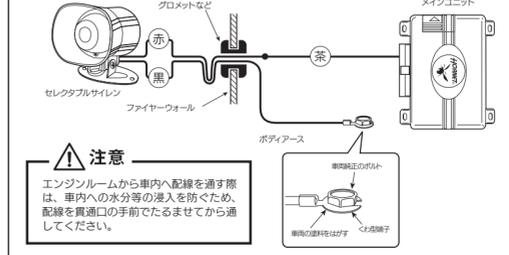
動作確認 LED / プログラムスイッチの取り付け

動作確認 LED は、運転席廻りや、車外から確認しやすいダッシュ上部の隅などに設置してください。

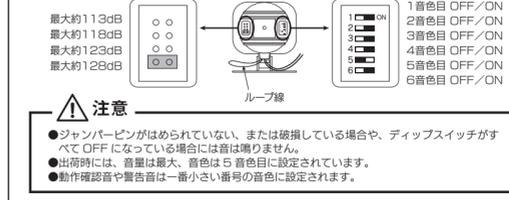


サイレン線の接続

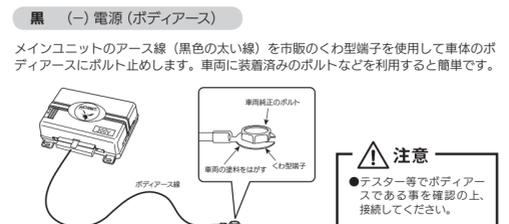
配線を室内に引き込んだ後、セレクトابلサイレンの赤線をメインユニットの茶線に接続します。



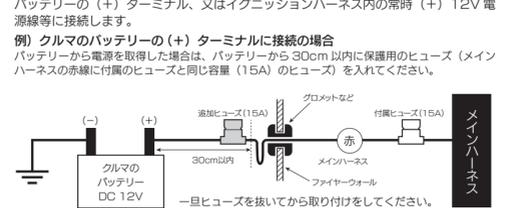
セレクトابلサイレンの音量/音色設定方法
音量を4段階から、音色を6種類から選択できます。



A 電源線の接続

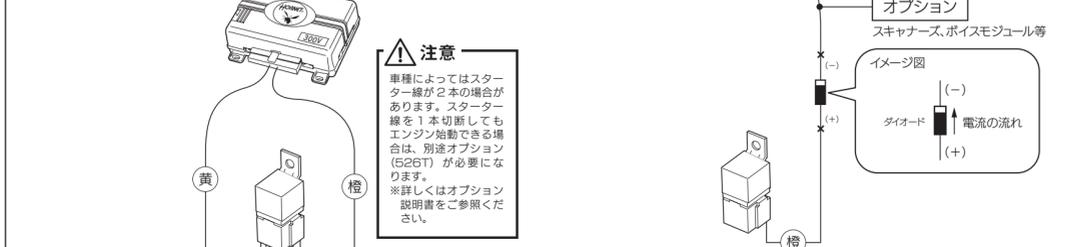
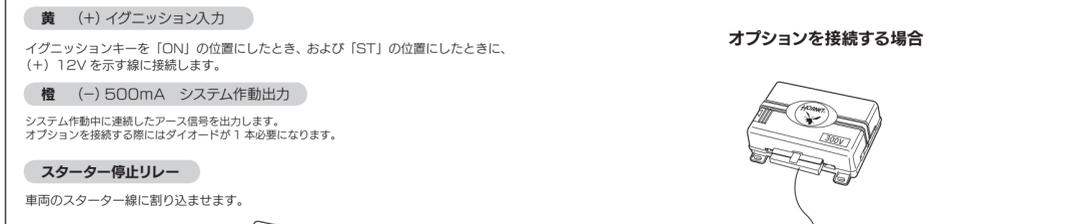


電源接続をする前に、一旦メインハーネス付属のヒューズを抜いてから接続を行ってください。



- 注意
●車両のボディコンピューター等の設定がリセットしてしまう可能性があります。

B イグニッション線およびシステム作動出力線の接続



- 注意
●オプションの橙線をメインハーネスの橙線と接続する場合は、ダイオードが必要となります。

◎以降は裏面をご覧ください。

C ドアトリガー線の接続

線 (-) ドアトリガー入力

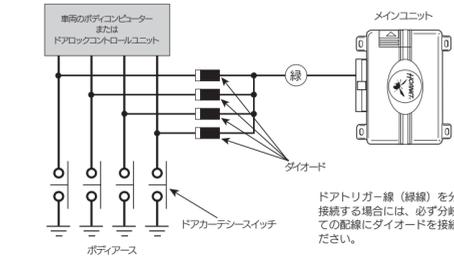
車両のドア(テールゲート/ハッチ含む)が開いたときに、ボディアースと導通する(またはOV付近まで電圧降下する)配線に接続します。接続先は主に車両のドアカーテジスイッチ(ドアスイッチ)になります。

- ＜見つけ方＞
- ① 計測器(テスター)をDCまたはDCVにセットしてください。
 - ② (-) 検針をボディアースに接続します。
 - ③ (+) 検針をテストする線にあてます。
 - ④ ドア開、ルームランプ消灯の状態からドアを開け、ルームランプ点灯と同時にOV付近まで電圧降下する配線を探します。
 - ⑤ 見つけた線が全てのドアを開けても信号が取得できることを確認します。

注意

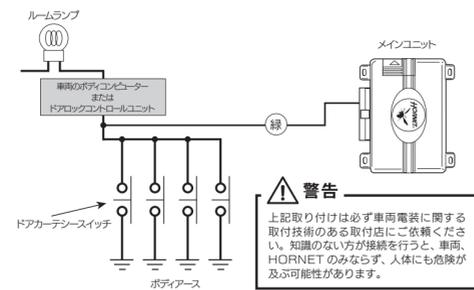
- 各ドアのドアカーテジスイッチが独立している場合には、ドアトリガー線(緑線)を分岐する必要があります。分岐する場合は配線全てにダイオードを入れてください(5個同時)。
- ドアカーテジスイッチがないドアには取り付けできません。
- 残照灯付車の場合には、残照灯が消える前にセキヨリティを起動させると、センサーレポート音が鳴ることがあります。ただし、残照灯が消えてから5秒後に自動的にドアトリガーは復帰しますので、センサーとして問題はありません。

【ドアスイッチが独立してコンピューターに接続されている車種への接続例】



ドアトリガー線(緑線)を分岐して接続する場合には、必ず分岐した全ての配線にダイオードを接続してください。

【ドアスイッチが1ラインで接続されている車種への接続例】



警告

上記取り付けは必ず車両電装に関する取付技術のある取付店にご依頼ください。知識のない方が接続を行うと、車両、HORNETのみならず、人体にも危険が及ぶ可能性があります。

D ライトフラッシュ線の接続

白 (+) / (-) ライトフラッシュ出力 (容量10A)

この線を接続するとスマートライトを点滅させ、ホーンネットの作動状況の確認や威嚇ができます。ライトスイッチの信号線に接続します。

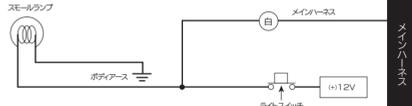


ライトフラッシュ (+) / (-) の切替方法

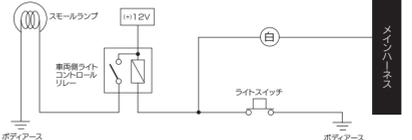
白線(ライトフラッシュ出力線)の出力極性を決定します。【初期設定(+)出力】カバーをスライドし、10Aヒューズを差し替えます。



(+)コントロール車種



(-)コントロール車種



スマートライト (+) 線の見つけ方

- ① 検電器を用意してください。
- ② ボディアース接続用クリップをボディアースに接続します。
- ③ 検電計をテストする線にあてます。
- ④ テストした線が正しい線であれば車のライトスイッチをスマートONにした時に、スマートライトが点灯すると同時に、検電器の確認ランプが点灯します。
- ⑤ ④で信号線を見つけたら、照度調整つまみ(装着車のみ)を操作することでその線の影響を受けないか確認してください。
- ⑥ 確認した線にホーンネットメインユニットの白線を接続します。

スマートライト (-) 線の見つけ方

- ① 検電器を用意してください。
- ② ボディアース接続用クリップをボディアースに接続します。
- ③ 検電計をテストする線にあてます。
- ④ テストした線が正しい線であれば車のスマートライトが点灯します。このとき検電器の確認ランプは点灯しません。
- ⑤ ④で信号線を見つけたら、照度調整つまみ(装着車のみ)を操作することでその線の影響を受けないか確認してください。
- ⑥ 確認した線にホーンネットメインユニットの白線を接続します。



警告

- 車両側の信号線を検電器などでチェックする際には、検電計が他の信号線などに接触しないように特に注意してください。回路などがショートし、車両部品、本製品に損傷を与える可能性があります。
- 一部のLEDランプ付の検電器では正しい信号線でもスマートライトが点灯しない場合がありますので、この場合には、検電器タイプの検電器をお使いください。

E センサー入力線の接続

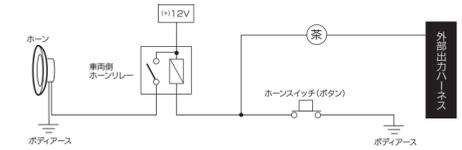
青 (-) インスタントリガー入力線

オプションセンサーやスイッチ等から(-)信号を受け取り警報を発生します。オプションセンサーを連動する場合に使用します。連動しない場合は、必ず絶縁処理してください。取り付け方法は、各オプションの説明書をご確認ください。

F 外部出力ハーネスの接続

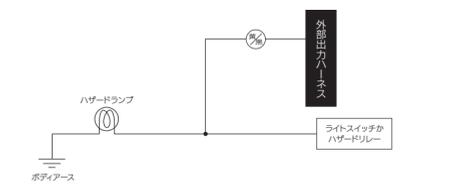
茶 (-) 200mA ホーン出力

この線を接続するとサイレンに連動して車両のホーンを鳴らすことができます。車両のホーンスイッチの(-)コントロールの線に接続します。車両のホーンスイッチが(+)コントロールの場合には別途リレー(525T)が必要です。機能設定で出力時間と出力パターンの変更が行えます。



黄/黒 ハザードフラッシュ入力 (+)

不正にドアアンロックを行ったときに、システムOFFしないようにするための線です。純正キーレスでアンロックボタンを押したときにハザードフラッシュする場合、ハザードフラッシュ線に接続します。

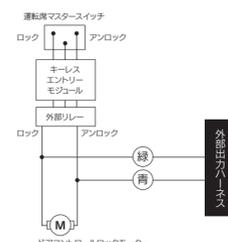


青 ドアアンロック入力 (+)

ドアアンロックしたことを感知して、システムをOFFするための線です。運転席側のドアアンロックモーター線に接続します。

線 ドアロック入力 (+)

ドアロックしたことを感知して、システムをONするための線です。運転席側のドアロックモーター線に接続します。



ショックセンサーの取り付け

ショックセンサーの固定

504D 本体は、ダッシュ内やハンドル付根等にあるエアダクト等のプラスチック製の部品に固定してください。固定にはクッションのある両面テープを使うか結束バンド等で縛りつけてください。



注意

センサー本体を金属物に直接取り付けしないでください。誤作動の原因になります。また、感度の調整がしやすい位置を選んでください。

衝撃感度の調整

感度調整ネジを右に回すと感度は敏感になります。また、左に回すと感度は鈍くなります。ご使用の用途に応じて調整してください。

オレンジ色の感度調整ポリウム

左回し感度小 (←) 右回し感度大 (→)

注意

感度を敏感にしすぎると雨や周囲の微振動などに反応しやすくなります。使用する周囲の環境に応じて、適切に調整してください。

オプションセンサー(マルチプレックス対応)を連動する場合に使用します。オプションセンサーの(-)線は、センサー信号入力線を接続します。連動しない場合は、必ず絶縁処理してください。



ドアロックの学習

〈ドアロック学習の手順〉

- 1 プログラムスイッチを押したまま3秒以内にイグニッションキーをONの位置にしてすぐにOFFの位置にします。
- 2 3秒以内にプログラムスイッチを離し、その後続けてプログラムスイッチを押して離して、再度押し続けます(ロック学習が終了するまで押し続けます)。
- 3 1秒ほど経過すると、動作確認LEDが1回点滅を繰り返します。
- 4 動作確認LEDの1回点滅を確認したら、純正キーレスのロックボタンを押します。動作確認LEDが点灯状態に変わりますので、点灯したらロックの学習は成功です。
- 5 動作確認LEDが点灯したことを確認したら、3秒以内にプログラムスイッチを離し、その後続けてプログラムスイッチを押して離して押し続けます(アンロック学習が終了するまで押し続けます)。
- 6 1秒ほど経過すると、動作確認LEDが2回点滅を繰り返します。
- 7 動作確認LEDの2回点滅を確認したら、純正キーレスのアンロックボタンを押します。動作確認LEDが点灯(最大5秒間)しますので、点灯したらアンロックの学習は成功です。
- 8 プログラムスイッチを離すと、ドアロック学習は終了します。

・ドアロックの学習の中で、それぞれ純正キーレスでロック/アンロックボタンを押した後に動作確認のLEDが点滅状態で変わらない場合は、ロック/アンロック学習ができていませんので、ロック学習(手順1)から再度学習を行ないます。

参考) 下記のいずれかの操作を行うとドアロックの学習は終了し、「ビッピービー」という終了音が鳴ります。

- ・イグニッションをONにする。
- ・プログラムスイッチを押したまま、何も操作せず15秒経過する。
- ・プログラムスイッチを操作以外に離す。

※ロックの学習が終了し、動作確認LEDが点灯した後すぐにプログラムスイッチを離すと学習が終了することがあります。

メインユニットのチェック方法

メインユニットの取り付け、配線が終了し、ドアロックの学習を行った後に、本体の機能チェックを行ってください。テスト手順は次の通りです。

動作確認LEDが点灯している事を確認してください。

- ※点灯/ハザードモード作動中
- 点滅→システムONもしくはダイアグノスティック機能

1: オン、オフの確認

□エンジン停止し、すべてのドアを開けてください。
□リモコンでロック/アンロック操作をすることに、確認音が鳴ってシステムON/OFFすることを確認してください。
□リモコンでロック操作をして、確認音が1回鳴る(システムONする)ことを確認してください。
システム状態/ON 5秒以上待ちます

2: ドアトリガーの確認

□それぞれドアを開けたとき、サイレンが鳴ることを確認してください。
□リモコンのロックボタンを押してハセキリティ解除をしてください。
※ロックボタンとアンロックボタンが共用のリモコンの場合、ハイセキュリティ解除は行えません。
システム状態/ON 5秒以上待ちます

3: ダブルガードショックセンサーの確認

□げんこつでフロントガラスを軽く叩いてみてください。この時、警告音(ビッピービッ)が7~10回ほど鳴ることを確認してください。
□げんこつでフロントガラスを強く叩いてみてください。この時、サイレン音(ビービービー)が鳴ることを確認してください。
※お客様のご希望に応じて感度を調整してください。
システム状態/ON 60秒以上待ちます

4: イグニッションONセンサー及びイモビライザーの確認

□イグニッションをONにした時、サイレンが鳴ることを確認してください。
□キーを回してもエンジンがかからないことを確認してください。
※システムONにしてから60秒以内にイグニッションをONにするとシステムがOFFになります。

必ずお読みください

- 上記より数回確認を行った結果、正常動作が確認されなかった場合は、「故障かな?と思ったら」(取扱説明書参照)に従って対策をご確認ください。ホーンネットは出荷時に全品正常に作動することを確認しています。
※テストの際はガラスやボディ等が破損しないように十分注意してください。

機能設定方法 (マニュアル)

1. ドアを開けます。
2. イグニッションキーをONにしてからOFFにします。
3. ドアを開めます。
4. プログラムスイッチを押し続けます。3秒後にチャープ音(ホーン)が1回鳴り、動作確認LEDが1回点滅したら、プログラムスイッチを離します。
5. プログラムスイッチを機能設定一覧表のナンバーの数だけ押します。
6. もう1度プログラムスイッチを押して、そのまま押し続けます。選択した機能設定一覧表のナンバーの数だけチャープ音が鳴り、動作確認LEDが点滅します。例:2回押しして3回目を押し続けたとき、「ビッピー」と鳴って動作確認LEDが2回点滅します。
7. プログラムスイッチを押し続けたま、リモコンを使用して機能設定の変更を行います。リモコンのロックボタンを押すとチャープ音が1回鳴り、動作確認LEDが点滅します。リモコンのアンロックボタンを押すとチャープ音が2回鳴り、動作確認LEDは消灯します。3項目以上設定がある場合、リモコンのロックボタンを押すとチャープ音が1回鳴り、動作確認LEDが1回点滅します。リモコンのアンロックボタンを押すたびにチャープ音が回数分鳴り、動作確認LEDも回数分点滅します。例:強制解除入力回数の場合
入力回数2回→「ビッピー」 入力回数3回→「ビッピービッピー」
入力回数4回→「ビッピービッピー」 入力回数5回→「ビッピービッピービッピー」
※ロックボタン、アンロックボタンが共用のリモコンの場合、3項目以降は設定できません。
8. プログラムスイッチを離します。
9. 違うナンバーを選択する場合、(5)に戻りますが現在設定したナンバーから始まります。前のナンバーは選択できません。
10. 下記のいずれかを行うと機能設定は終了します。そのとき、「ビッピービー」と鳴ります。
 - ・ドアを開ける
 - ・イグニッションキーをONにする
 - ・何も操作せず15秒経過する
 - ・プログラムスイッチを機能設定一覧表のナンバーの数以上に押す

注意

特定の操作でルームランプが点灯する車両では機能設定が正常に行えない場合があります。

機能設定項目

1 アクティブON/パッシブON

システムのON/OFF時の確認音の有/無を選択できます。

アクティブON	パッシブON
●リモコンのみでシステムON	●エンジン停止してからドアを開け、30秒後に自動的にシステムON ●リモコンでシステムON ●ドアが開いていてもエンジンを停止してから約1時間後にシステムON

2 クリックトーン ON/OFF

システムのON/OFF時の確認音の有/無を選択できます。

3 ドアトリガー*エラー音 ON/OFF

システムをONにしたときに、ドアが開いていることによって、センサーレポート機能が働かせるかどうかを選択できます。残照灯の影響などにより、半ドアでない場合でもセンサーレポート機能が働いてしまう場合のみ、OFFにしてください。

4 なし

5 パニックモード ON/OFF

パニックモードを使用するかどうかを選択できます。

6 なし

7 ドア開け時予備警告機能 ON/OFF

ドアを開けた時に即サイレン音ではなく、数回警告音を発した後、サイレン音を鳴らすかどうかを選択できます。
※即サイレン音を鳴らして威嚇する場合は、設定をOFFにして使用します。

8 なし

9 サイレンタイム 30秒/60秒

警報時間を選択できます。

10 強制解除入力回数 1/2/3/4/5回

強制解除時の入力回数を設定します。

11 ホーン出力時間 0.02/0.03/0.04/0.05秒

クリックトーンや警告時のホーン出力パルス時間を設定します。

機能設定一覧表

下線が初期設定

メニュー		
No.	リモコンのロックボタン設定	リモコンのアンロックボタン設定
1	アクティブ ON	パッシブ ON
2	クリックトーン ON	クリックトーン OFF
3	ドアトリガー*エラー音 ON	ドアトリガー*エラー音 OFF
4	なし	なし
5	パニックモード ON	パニックモード OFF
6	なし	なし
7	ドア開け時予備警告機能 ON	ドア開け時予備警告機能 OFF
8	なし	なし
9	サイレンタイム 30秒	サイレンタイム 60秒
10	強制解除入力回数 1回	強制解除入力回数 2/3/4/5回
11	ホーン出力時間 0.02秒	ホーン出力時間 0.03/0.04/0.05秒